

東京形成歯科研究会

生体反応を考慮した低侵襲審美インプラント修復

Minimally Invasive Aesthetic Implant Restorations That Consider Biological Responses

座長

磯邊 和重 Kazushige Isobe

東京形成歯科研究会
Tokyo Plastic Dental Society

講師

林 丈裕 Takehiro Hayashi

東京形成歯科研究会
Tokyo Plastic Dental Society

インプラント治療において、長期的な機能性と審美性の獲得には、生体の創傷治癒過程を考慮した低侵襲な治療介入が重要である。抜歯即時埋入インプラントは、治療期間の短縮や歯槽堤形態の維持に有効な術式であるが、その成功には初期固定だけでなく、炎症制御、血管新生、骨形成および軟組織治癒といった生物学的プロセスへの理解が不可欠である。これらの反応を適切にマネジメントすることは、周囲組織の安定性と良好な審美的成果につながる。

近年では、インプラント体のデザインや表面性状の進歩により、生体応答を促進しながら低侵襲な治療を実現することが可能となっている。これらを適切に活用することで、組織の保存と長期的な審美性の向上が期待できる。

本講演では、抜歯即時埋入を中心に、生体反応に配慮した審美領域における低侵襲アプローチの考え方と、長期的な機能性・審美性の獲得に向けた臨床のポイントについて、症例を交えて解説する。

【略歴】

林 丈裕

1999年 日本大学松戸歯学部 卒業

2004年 吉樹デンタルクリニック 開院

医療法人社団丈秀会 理事長

日本口腔インプラント学会 会員

総合インプラント研究センター

インプラントの咬合をデジタルで可視化する

Digital Visualization of Implant Occlusion

座長

尾関 雅彦 Masahiko Ozeki

総合インプラント研究センター
General Implant Research Center (GIRC)

関矢 泰樹 Yasuki Sekiya

総合インプラント研究センター
General Implant Research Center (GIRC)

講師

名取 健寿 Kenju Natori

総合インプラント研究センター
General Implant Research Center (GIRC)

インプラントの咬合を考える上で、天然歯との本質的な違いを理解することは不可欠である。天然歯には歯根膜が存在し、咬合力に対して20~100 μ mの圧偏位が生じるが、インプラントはその緩衝機能がない。かつてはIMZインプラントに代表される緩衝型インプラントが開発されたが、現在ではそのような機能を持つインプラントはなく、インプラントの咬合は天然歯と同様に管理するという考えが主流になりつつあるも、その根拠は乏しい。

インプラント周囲のトラブルや上部構造体の破折を回避するためには、従来の咬合紙による評価だけでは限界がある。咬合紙は咬合接触の有無はある程度把握できるものの、咬合力の大きさや時間的変化を客観的に捉える事は出来ない。

そこで本発表では、デジタル咬合診断装置T-scanを用いたインプラント咬合評価の実際について報告する。従来の咬合紙との比較を通じてデジタル評価の有用性を示すとともに、T-scan Novousに搭載されているインプラントワーニング機能に着目し、過負荷の早期検出における臨床的意義について考察する。

本機能を活用することでインプラントへの過度な咬合力を可視化し、トラブルの防止につなげることができる。また客観的なデータを患者に提示することで、治療への理解を得やすくなるという利点もある。まとめとして、デジタル技術を応用した咬合管理の可能性について報告する。

【略歴】

名取 健寿

1990年 日本歯科大学新潟歯学部卒業

1990年 東京医科歯科大学研修医入学

1992年 東京医科歯科大学研修医修了

2005年 医療法人 健明会 名取歯科医院 開設

2012年 総合インプラント研究センター (GIRC) 入会

2017年 日本口腔インプラント学会 専門医取得 第1212号

愛知インプラントインスティテュート

サイナスリフト法およびGBR法を用いた インプラント治療の継承と発展

Inheritance and Advancement of Implant Therapy Utilizing Sinus Lift and
Guided Bone Regeneration (GBR)

座長

伊藤 幸司 Koji Ito

愛知インプラントインスティテュート
Aichi Implant Institute

講師

寺本 祐二 Yuji Teramoto

愛知インプラントインスティテュート
Aichi Implant Institute

堀田 久斗 Hisato Hotta

愛知インプラントインスティテュート
Aichi Implant Institute

インプラント治療において、顎骨の水平的・垂直的骨量不足を伴う症例に対しては、GBR法やサイナスリフト法が重要な骨造成術として広く用いられている。当施設では1980年代後半より、欧米の著名な臨床家から学んだ先進的な骨造成技術および治療理論を臨床に導入されてきた。サイナスリフト法は1990年、GBR法は1992年より臨床導入されており、現在ではサイナスリフトの35年以上の経過観察が可能な症例を確認することができる。これらの症例は、治療理論や長期予後を学ぶうえで極めて貴重な臨床資料である。当施設では、安全かつ確実な外科手技の習得と長期安定性を目指した知識・技術の継承に継続的に取り組んでいる。本セッションでは、当施設会員である専門医・指導医が、GBR法およびサイナスリフト法を併用したインプラント治療症例を提示する。各症例を通じて、継承されてきた治療理論と術式を振り返るとともに、術者が術前にどのような診断・治療計画を立案し、術中にどのような点に留意しながら手術を遂行したのか、また手術の成功に必要な考え方や基本原則について臨床的観点から考察する。

なお、発表症例はすべて患者の同意を得たうえで使用する。

【略歴】

寺本 祐二

2012年 松本歯科大学大学院 卒業 歯学博士
2014年 信州大学医学部 歯科口腔外科 助教
2018年 日本口腔インプラント学会 指導医
2016年 日本口腔外科学会 認定医
2024年 日本歯周病学会 認定医

堀田 久斗

2014年 日本大学松戸歯学部 卒業
2019年 Associate Fellow of the American Academy of
Implant Dentistry
2022年 日本口腔インプラント学会 専門医

日本歯科大学新潟病院口腔インプラント科

インプラント治療における Provisionalization 戦略 －臨床状況に応じた治療アプローチ－

Implant Provisionalization Strategies -Treatment Approaches According to Clinical Situations-

座長

廣安 一彦 Kazuhiko Hiroyasu

日本歯科大学新潟病院口腔インプラント科
Oral Implant Care Unit, The Nippon Dental University
Niigata Hospital

瀬戸 宗嗣 Munetsugu Seto

日本歯科大学新潟病院口腔インプラント科
Oral Implant Care Unit, The Nippon Dental University
Niigata Hospital

講師

上田 一彦 Kazuhiko Ueda

日本歯科大学新潟病院口腔インプラント科
Oral Implant Care Unit, The Nippon Dental University
Niigata Hospital

インプラント治療における Provisional restoration は、審美性の回復のみならず、抜歯窩の封鎖、軟組織形態の形成、咬合機能の回復、治療期間中における審美性および機能の維持、さらには最終補綴装置への形態情報伝達など、多岐にわたる役割を担っている。近年では Immediate provisionalization の有効性が広く報告されているが、初期固定の状態、欠損形態、軟組織量、骨造成の有無、審美的要求度など、個々の臨床状況に応じた治療戦略が求められる。

本講演では、臨床状況に応じた Provisionalization 戦略について、十分な初期固定が得られた症例に対する Immediate provisional restoration、初期固定が不十分な症例における Resin-bonded Provisional Restoration の応用、抜歯窩封鎖および骨補填材の安定化を目的とした Custom Resin Healing Abutment の応用、治療ステージに応じて Provisional Restoration を柔軟に変化させた症例などを供覧し、Provisional Restoration を活用したインプラント治療について考察する。

【略歴】

上田 一彦

1998年 日本歯科大学新潟歯学部 卒業
2003年 日本歯科大学大学院新潟歯学研究科 修了
2015年 日本歯科大学新潟病院口腔インプラント科 医長 准教授
2017年 日本歯科大学新潟生命歯学部 歯科補綴学第2講座 准教授
2021年 日本歯科大学新潟生命歯学部 歯科補綴学第2講座 教授(現職)

九州インプラント研究会

埋入成功から生涯成功へ —長期成功のためのインプラント治療戦略—

Strategies for Lifelong Success in Implant Therapy

座長

加来 敏男 Toshio Kaku

九州インプラント研究会
KIRG

講師

飯島 俊一 Toshikazu Iijima

九州インプラント研究会
KIRG

インプラント治療の成功は、単なるオッセオインテグレーション獲得や短期的な機能回復ではなく、患者の生涯にわたる機能維持と、健康寿命の延伸にあると考える。しかし、インプラント周囲炎、機械的トラブル、加齢に伴う骨変化、補綴装置の劣化などにより、長期予後は必ずしも良好とは限らない。

本講演では、長期成功を実現するための診断と治療戦略について考察する。特に抜歯後の骨変化の観察、骨質に応じたインプラントの選択、インプラントーアバットメント接合部の微小循環、軟組織の安定化、および継続的なメンテナンスの重要性について述べる。また、生涯使用をめざして開発されたテーパーロック型インプラントの設計思想を紹介しながら、埋入成功から生涯成功へ導くための臨床的視点について報告する。

【略歴】

飯島 俊一

1979年4月 東京歯科大学大学院(補綴学専攻)入学

1983年10月 東京歯科大学大学院終了 歯学博士(補綴学専攻)

1991年12月 アイ・ティー デンタルクリニック開設

2001年4月 東京歯科大学水道橋病院インプラント外来非常勤師

2005年5月～ 東京歯科大学臨床教授

香川大学医学部附属病院 歯・顎・口腔外科

広範囲顎骨支持型装置の臨床成績と歯科衛生士の取り組み

Clinical Evaluation of Extensive Jaw Bone-supported Prosthetic Devices and Dental Hygienist Care

座長

三宅 実 Minoru Miyake

香川大学医学部附属病院 歯・顎・口腔外科
Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Kagawa
University Hospital

講師

中井 康博 Nakai Yasuhiro

香川大学医学部附属病院 歯・顎・口腔外科
Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Kagawa
University Hospital

高國 恭子 Kyoko Takakuni

香川大学医学部附属病院 歯・顎・口腔外科
Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Kagawa
University Hospital

悪性腫瘍などによる広範囲な顎骨欠損症例では著しい咀嚼機能の低下を認めることが多い。2012年4月より広範囲顎骨支持型装置が保険適応となり、当科では導入当初より本装置を積極的に活用してきた。今回、当科における広範囲顎骨支持型装置の臨床成績について、歯科医師・歯科衛生士のそれぞれの視点から報告する。

歯科医師の立場からは、咀嚼機能評価とインプラント周囲骨吸収について報告する。各種咀嚼機能評価(佐藤・平井・内田・山本式アンケート、チェックガム、グミゼリー)では、補綴装置装着後に全指標で有意な改善を認めた($p<0.001$)。ただし補綴前から咀嚼機能が保たれていた症例では、スコアの低下を認めるものも存在した。インプラント周囲骨吸収については、埋入骨の種類と骨吸収の有無に有意な関連を認めた($p=0.027$)。

歯科衛生士の立場からは、専門的口腔衛生管理の取り組みと介入効果について報告する。顎骨再建部の軟組織ではセルフケアが困難なためインプラント周囲炎が発症しやすく、口腔衛生指導によりPCRの有意な低下は得られたものの、インプラント周囲粘膜炎の発症率は依然高かった。歯科衛生士による継続的な専門的口腔衛生管理の重要性を再認識した。

【略歴】

中井 康博

2013年4月 香川大学医学部附属病院 研修医
2014年4月 香川大学医学部歯科口腔外科学講座
医員
2016年4-9月 香川大学医学部附属病院 麻酔科ペイン
クリニック科 医員
2018年9月 紀南病院 歯科口腔外科 医員
2020年10月 香川大学医学部歯科口腔外科学講座
助教

高國 恭子

2000年4月 さくら歯科医院 勤務 歯科衛生士
2002年5月 富田歯科医院 勤務 歯科衛生士
2010年2月 香川大学医学部附属病院 歯・顎・口腔外
科 歯科衛生士
2023年10月 香川大学医学部附属病院 医療技術部 歯
科部門 主任歯科衛生士
2023年10月 香川大学医学部附属病院 医療技術部 歯
科部門 部門長

口腔インプラント生涯研修センター

公益社団法人日本口腔インプラント学会臨床系研修施設における 研修プログラムの作成とGIO・SBOsの設定を骨造成から考察する

Development of a Training Program and Establishment of GIO and SBOs in Clinical Training
Facilities Accredited by the Japanese Society of Oral Implantology: Considerations from the
Perspective of Bone Augmentation

座長

鈴木 龍 R SUZUKI

口腔インプラント生涯研修センター
The Lifelong Learning Center for Oral Implantology

講師

辻 将 M TSUJI

口腔インプラント生涯研修センター
The Lifelong Learning Center for Oral Implantology

久保 宗平 S KUBO

口腔インプラント生涯研修センター
The Lifelong Learning Center for Oral Implantology

今後日本歯科専門医機構専門医制度が開始されると、機構認定専門医を育成する研修施設あるいは準研修施設での研修プログラムを受けることになる。これはOJT「On-the-Job Training」、勤務する施設での研修になる。このため研修内容はその施設の特徴が反映される。公益社団法人日本口腔インプラント学会では、大学系・臨床系研修施設が学会の基礎となる様々な研修に携わってきた。学会研修施設での研修が今後どのような方向性を示すべきか、日本歯科専門医機構の研修を考慮して考えなければいけない。お互いのGIO・SBOsの違いを考察する。インプラント研修の内容としては、今後のインプラント治療に必要不可欠な骨造成を選択した。今回は生涯研修センター所属の歯科医師2人が登壇し骨造成についての考え方、方法を発表する。育ってきた環境が異なる比較的若い世代から選抜した。2人のアプローチの違いから、日本口腔インプラント学会研修施設での研修の必要性を再確認し、臨床系研修施設での研修プログラムの作成に役立てる。

【略歴】

辻 将

2009.3 東京歯科大学 卒業
2014.3 東京歯科大学大学院 卒業 学位(歯科補綴学)
2014.4 医療法人社団秀和会つがやす歯科医院 勤務
2019.7 医療法人社団八龍会すずき歯科医院 勤務
2025.5 一般社団法人口腔インプラント生涯研修センター
理事

久保 宗平

2012.3 東京歯科大学 卒業
2014.4 公立学校共済組合東海中央病院
2023.2 日本口腔インプラント学会 専門医
2023.5 一般社団法人口腔インプラント生涯研修センター
理事
2009.3 くほ歯科医院 開院

新潟大学医歯学総合病院 顎口腔インプラント治療部

インプラント治療における力の因子を探る — 顔貌・骨格・筋から力を予測する —

Exploring Factors Associated with Occlusal Force in Implant Therapy:
Identification and Preoperative Assessment of Occlusal Force-Related Indicators

座長

荒井 良明 Yoshiaki Arai

新潟大学医歯学総合病院 顎口腔インプラント治療部

Niigata University Medical and Dental Hospital, Oral Implant and Temporomandibular Joint Clinic

講師

高嶋 真樹子 Makiko Takashima 山本 悠 Yu Yamamoto

新潟大学医歯学総合病院 顎口腔インプラント治療部

Niigata University Medical and Dental Hospital, Oral Implant and Temporomandibular Joint Clinic

新潟大学医歯学総合病院 顎口腔インプラント治療部

Niigata University Medical and Dental Hospital, Oral Implant and Temporomandibular Joint Clinic

ロクサーナ ステガロユ

Roxana STEGAROIU

新潟大学医歯学総合病院 顎口腔インプラント治療部

Niigata University Medical and Dental Hospital, Oral Implant and Temporomandibular Joint Clinic

インプラント治療において、咬合力をはじめとする力学的因子は長期予後に影響する重要な要素と考えられている。しかし、欠損補綴であるインプラント治療では、治療後にインプラントへ加わる力を術前に直接評価することは困難である。特に無歯顎や多数歯欠損症例では、咬合力測定そのものが成立せず、術前に取得可能な情報から力を推定する必要がある。

本セッションでは、「顔貌・骨格・筋から力を予測する」という視点から、当施設で取り組んできた一連の研究を紹介する。顔貌と咬合力との関連に関する知見を概説した後、パノラマX線写真から得られる骨格指標である下顎角 (gonial angle)、筋指標である咬筋断面積とインプラント予後との関連について報告する。さらに、部分欠損症例における術前咬合力から術後インプラント咬合力を推定する試みについても紹介する。

顔貌・骨格・筋・咬合力という異なる視点から、インプラント治療における力の評価について考察し、今後の臨床応用の可能性について議論したい。

【略歴】

高嶋 真樹子

2008年 新潟大学歯学部卒

2016年 新潟大学歯学部大学院修了

2020年 新潟大学医歯学総合病院
顎口腔インプラント治療部
特任助教

2021年 日本補綴歯科学会専門医

2023年 日本口腔インプラント学会
専門医

山本 悠

2018年 新潟大学歯学部卒

2023年 新潟大学歯学部大学院修了

2026年 新潟大学医歯学総合病院
顎口腔インプラント治療部
医員

ロクサーナ ステガロユ

1991年 Faculty of Dentistry,
University of Medicine
and Pharmacy “Carol
Davila”, Bucharest (ルーマ
ニア) 卒

1998年 新潟大学大学院歯学研究科
修了

1998年 新潟大学歯学部第2補綴学
講座 助手

2004年 新潟大学医歯学総合研究科
口腔生命福祉学講座 准教授

埼玉医科大学総合医療センター 歯科口腔外科

インプラントを選択する前に再考する自家歯牙移植・意図的再植術

Reconsidering Tooth Transplantation and Intentional Replantation Before Selecting Implants

座長

金子 貴広 Takahiro Kaneko

埼玉医科大学総合医療センター 歯科口腔外科
Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Saitama
Medical Center, Saitama Medical University

講師

中村 悟士 Satoshi Nakamura

埼玉医科大学総合医療センター 歯科口腔外科
Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Saitama
Medical Center, Saitama Medical University

骨高径が不足し下歯槽管や上顎洞底が近接する症例、骨幅が狭く周囲骨量の確保が困難な症例、また成長期にある若年者など、インプラント治療を躊躇するケースは少なくありません。そこで本セッションでは、歯牙移植や意図的再植術の有用性を今一度見直してみたいと思います。

従来、歯牙移植は規格性がない分、術者の技量に依存するテクニックセンシティブな治療とされてきました。しかし近年、3Dプリンターを用いたレプリカ歯やガイドサージェリー技術の応用により治療難易度は下がっています。また意図的再植術においても、的確な診査・診断のもと、予知性を高めることが可能となっています。

欠損補綴においてインプラントは有用な選択肢ですが、自らの歯で欠損を回復することは、感覚の受容や骨誘導能といった歯根膜が持つ優位性だけでなく、咬耗や移動など他の歯と共に口腔内の経年的変化に追従できるなど、患者に多大な恩恵をもたらします。

インプラントを選択する前段階の臨床戦略として、現代の技術を融合させた歯牙移植・意図的再植術の可能性について供覧します。

【略歴】

中村 悟士

2012年 日本大学歯学部 卒業

2013年 埼玉医科大学総合医療センター歯科口腔外科
研修医

2015年 埼玉医科大学総合医療センター歯科口腔外科
助教

2024年 大宮歯科口腔外科クリニック 開業
日本口腔外科学会認定口腔外科専門医

兵庫医科大学医学部歯科口腔外科学講座

口腔インプラント臨床における予防抗菌薬と治療抗菌薬の 適正使用を考える

Appropriate Use of Prophylactic and Therapeutic Antibiotics in Oral Implantology

座長

上田 美帆 Miho Ueta

兵庫医科大学医学部歯科口腔外科学講座
Department of Oral and Maxillofacial Surgery, School of
Medicine, Hyogo Medical University

講師

岸本 裕充 Hiromitsu Kishimoto

兵庫医科大学医学部歯科口腔外科学講座
Department of Oral and Maxillofacial Surgery, School of
Medicine, Hyogo Medical University

徳本 佳奈 Kana Tokumoto

兵庫医科大学医学部歯科口腔外科学講座
Department of Oral and Maxillofacial Surgery, School of
Medicine, Hyogo Medical University

抗菌薬の不必要な使用および不適切な使用による耐性菌の増加が世界的に問題視されており、抗菌薬の適正使用が喫緊の課題となっている。本邦においても、薬剤耐性（AMR）対策の一環として、2025年に厚生労働省より「抗微生物薬適正使用の手引き第四版 歯科編」（以下、「手引き」）が公開された。本セッションでは、「手引き」を紐解きながら、インプラント治療に関連する抗菌薬の適正使用に必要な考え方を提示する。また、インプラント治療に関する予防抗菌薬ならびに治療抗菌薬のエビデンスを整理し、「手引き」を踏まえたうえで、インプラント体埋入および関連手術の周術期に感染予防として使用される「予防抗菌薬」と、インプラント周囲炎の消炎を目的とした「治療抗菌薬」の使用について解説する。さらに、臨床例を供覧しながら、口腔インプラント治療における予防抗菌薬と治療抗菌薬の処方について、当施設ではどのように考えているかを学会員と共有する。抗菌薬の適正使用について、学会員の口腔インプラント臨床に有益なセッションを目指す。

【略歴】

岸本 裕充

1989年 大阪大学歯学部 卒業
1989年 兵庫医科大学病院 研修医（歯科口腔外科）
1996年 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 助手
2005年 同 講師, 2009年 同 准教授
2013年 同 主任教授, 現在に至る

徳本 佳奈

2015年 岡山大学歯学部 卒業
2015年 東京医科歯科大学歯学部附属病院 臨床研修医
2020年 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程
（インプラント再生補綴学分野）修了, 博士（歯学）取得
2020年 岡山大学病院（クラウンブリッジ補綴科）医員
2023年 兵庫医科大学医学部歯科口腔外科学講座 助教, 2026年 同 臨床講師, 現在に至る

臨床器材研究所

矯正力を利用した骨増生

Site Development by Means of Orthodontic Force

座長

神谷 英道 Hidemichi Kamiya

臨床器材研究所
Institute of Clinical Materials

講師

北村 清太 Seita Kitamura

臨床器材研究所
Institute of Clinical Materials

インプラント体を埋入するにあたり骨量が不足しているケースは多い。このため自家移植骨、異種移植骨あるいは人工材料などでインプラント体周囲を骨補填するGBR法などの臨床技法が代表的な骨造成法として広く知られている。一方で、既存骨を切断・伸展拡大するスプリットクレスト法や仮骨延長術などの骨増生法も知られている。これに対して矯正力を用いて歯牙を移動させ歯根周囲の骨の添加・吸収により骨増生を行う方法(Orthodontic Implant Site Development, 以下 OISD) もいくつか報告がある。本セッションでは、OISD で骨増生を行った下記2症例を紹介し、これらの症例を通して矯正力を用いて骨増生を行うことの特徴や勘どころについて述べてみたい。

症例1. 55歳女性、外傷にて歯根破折を生じ、抜歯前に歯根歯根に回転・挺出力を用いて骨増生を行ったケース。

症例2. 68歳女性、重度歯周病により保存不可の歯に挺出力を用いて骨増生後を行ったケース。

【略歴】

北村 清太

1998年 鹿児島大学歯学部卒業

2013年 日本口腔インプラント学会専門医

2026年 日本口腔インプラント学会指導医

佐賀大学医学部歯科口腔外科学講座

Bone Anchored Bridge —成功のための診査・診断から補綴までの治療戦略—

Bone Anchored Bridge
-Treatment Strategies for Success from Examination and Diagnosis to Restorations-

座長

山下 佳雄 Yoshio Yamashita

佐賀大学医学部歯科口腔外科学講座

Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Faculty of Medicine, Saga University

講師

中山 雪詩 Yukishi Nakayama

佐賀大学医学部歯科口腔外科学講座

Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Faculty of Medicine, Saga University

Bone Anchored Bridgeは欠損歯患者に対する有効な補綴治療として広く普及しており、インプラント治療を志す臨床家にとってはマスターすべき基本手技の1つである。一方で本治療においても、長期的な機能維持とPeri-implant Healthの獲得が求められることから、術前の十分な診査・診断に基づく適切な治療計画が不可欠である。またBone Anchored Bridge治療では即時荷重が選択される機会も多く、良好な初期固定を獲得するための埋入位置や術式の選択が予後に大きく影響する。

本講演では、Bone Anchored Bridgeをこれから導入する臨床家を対象に、適応症の考え方、術前診査、埋入本数とボジショニング、即時荷重の要点、補綴設計および合併症回避について自験例、さらには文献的考察を交えながら解説する。また当施設で実践しているデジタルワークフローについても紹介しBone Anchored Bridge治療を成功に導くための実践的な治療戦略について考察したい。

【略歴】

中山 雪詩

2010年 福岡歯科大学 卒業

2010年 佐賀大学医学部歯科口腔外科学講座 入局

2014年 医療法人社団 敬愛会 佐賀記念病院 歯科口腔外科 部長

2025年 医療法人 SIC 佐賀中央歯科口腔外科 理事長

(公社) 日本口腔外科学会 専門医

(公社) 日本口腔インプラント学会 専門医

日本インプラント臨床研究会

輝けるインプラントロジストへの序章 —歯科医師のためのインプラント入門—

Prologue to Becoming a Brilliant Implantologist:
An Introduction to Implant Dentistry for Dental Practitioners

座長

笹谷 和伸 Kazunobu Sasaya

日本インプラント臨床研究会
Clinical Implant Society of Japan

岩野 義弘 Yoshihiro Iwano

日本インプラント臨床研究会
Clinical Implant Society of Japan

講師

諸岡 朋子 Tomoko Morooka

日本インプラント臨床研究会
Clinical Implant Society of Japan

酒井 嶺 Ryo Sakai

日本インプラント臨床研究会
Clinical Implant Society of Japan

インプラント治療は欠損補綴における重要な選択肢となっており、適切に行われれば患者に大きな利益をもたらすが、術者には高い責任が求められる。そのため、初学者にとっては意義を感じる一方で不安を伴う領域である。近年、日本インプラント臨床研究会の認定講習会にはインプラント未経験あるいは経験の浅い先生方の受講が増加している。そのため、当会において初めて初学者を主たる対象とした書籍「歯科医師のためのインプラント入門」(クインテッセンス出版, 2026)が発刊された。本書は、過度な情報が理解の障壁となることを避けるため内容を厳選し、Q&A形式により実践的かつ読みやすい構成とした。

本発表では、本書のコンセプトと内容を紹介するとともに、診査・診断から埋入手術、上部構造装着、メンテナンスに至る標準的な治療の流れを概説する。さらに症例を提示し、一連の治療内容を報告する。

これからインプラント治療に取り組まれる先生方にとって、本書および本発表が臨床への確かな第一歩となれば幸いである。

【略歴】

諸岡 朋子

2005年 日本大学歯学部卒業
2005年～ 日本大学歯学部歯周病学講座 研究生
2009年～ 日本大学歯学部附属歯科病院 歯周病科 専修医
2015年～ 日本大学歯学部附属歯科病院 歯周病科 非常勤医
諸岡歯科医院 勤務
広尾麻布歯科 勤務
日本歯周病学会 専門医

酒井 嶺

2017年 日本大学歯学部卒業
2022年 日本大学大学院歯学研究科修了 博士(歯学)
2023年 日本大学歯学部歯科保存学第Ⅲ講座・助教
2025年 日本大学歯学部附属歯科病院歯科インプラント科

日本歯科先端技術研究所

インプラント難民ゼロを目指して

Aiming for Zero Implant Refugees

座長

竹島 明道 Akimichi Takeshima

日本歯科先端技術研究所
Japan Institute for Advanced Dentistry

講師

田島 聖士 Satoshi Tajima

日本歯科先端技術研究所
Japan Institute for Advanced Dentistry

平塚 智裕 Tomohiro Hiratsuka

日本歯科先端技術研究所
Japan Institute for Advanced Dentistry

現在、インプラント治療は一般への認知度も高く、欠損補綴の選択肢として、普及が進んでおり、治療の特性ならびに、本邦の長寿高齢化も相まって長期経過症例も多く存在する。

一方で、各メーカーの企業努力で産まれた数多のインプラントシステムの存在が、その意図に反して、転院後の対応を難しくしているのも事実である。

それらの要因によるいわゆる「インプラント難民」を救済すべく、公益社団法人 日本歯科先端技術研究所では、会員向けにリーフレット「インプラント治療を理解していただくために」やインプラント手帳「わたしのインプラント治療」を作成した。また公には書籍「このインプラントなに？」の上梓を皮切りに、「インプラント難民ゼロ」を目指して活動して来た。

その延長線上で、本セッションメンバーを中心にFacebookの非公開コミュニティ「ImplaDetect」(2026年5月28日時点のメンバー数は3,203人)を立ち上げたが、インプラントシステム特定の相談投稿は途絶える事なく溢れている。

また、システム特定は一里塚に過ぎず、その後の対応には苦慮する事が多い。本講演から、それらの問題への対処のヒントが得られれば幸甚である。

【略歴】

田島 聖士	平塚 智裕
2004年 日本大学松戸歯学部 卒業、防衛省海上自衛隊入隊	2004年 昭和医科大学(旧：昭和大学)歯学部卒業
2015年 医療法人社団葵会 AOI国際病院歯科口腔外科部長(現在 葵会グループ統括本部 DX戦略部長兼任)	2004年 東京科学大学(旧東京医科歯科大学)高齢者歯科学分野 専攻
2023年 学校法人 医療創生大学歯科衛生専門学校 校長兼任	2009年 ブローネマルク・オッセオインテグレーション・センター 勤務
日本口腔インプラント学会 専修医	2020年 Bc デンタルオフィス開設
	2015年～2024年 東京医科歯科大学高齢者歯科学分野 非常勤講師

みなとみらい(MM)インプラントアカデミー

Future of Implant Dentistry —テクノロジーが変えるインプラント歯学と歯科医師の未来—

Future of Implant Dentistry
—How Technology Will Shape Implant Dentistry and the Future Role of Dentists—

座長

北條 正秋 Masaaki Hojo

みなとみらい(MM)インプラントアカデミー
Minatomirai (MM) Implant Academy

講師

勝山 英明 Hideaki Katsuyama 新村 昌弘 Masahiro Niimura 渡辺 顕正 Kensho Watanabe

みなとみらい(MM)インプラントアカデミー
Minatomirai (MM) Implant Academy

みなとみらい(MM)インプラントアカデミー
Minatomirai (MM) Implant Academy

みなとみらい(MM)インプラントアカデミー
Minatomirai (MM) Implant Academy

近年、わが国では人口減少と超高齢社会の進展にともない、歯科医療を取り巻く環境は大きな転換期を迎えている。高齢患者の増加にともなう全身疾患や服用薬剤への配慮、口腔機能の維持・回復に対する社会的ニーズの高まりなど、インプラント治療にはこれまで以上に包括的な診断能力と長期予後を見据えた治療戦略が求められている。

一方、CBCT、IOS、デジタルプランニング、ガイドサージェリーに加え、AI技術の急激な発展は、診断・治療計画、外科、補綴、さらにはメンテナンスに至るまで、診療ワークフローを大きく変えようとしている。今後、一般的なインプラント症例では診療の再現性がさらに向上し、治療の効率化と均質化が進むことが予想される。

その一方で、審美領域や硬・軟組織マネジメント、大規模骨造成、全顎補綴など高度な診断力と臨床判断を要する症例の価値は相対的に高まり、インプラント診療は、単純な症例を担う領域とより専門性の高い領域へと役割分化が進むものと考えられる。テクノロジーが進歩する時代だからこそ、複雑な症例に対して最適な治療を選択、実践できる専門医の役割は今後さらに重要になるだろう。

本講演では、人口動態の変化とAI・デジタル技術がインプラント歯学にもたらす変革を展望するとともに、その時代に歯科医師が果たすべき役割について考察する。

【略歴】

勝山 英明

1987年 九州大学歯学部卒業、九州大学大学院歯学臨床系口腔外科学入学
1991年 九州大学大学院修了、歯学博士
1991年 Harvard大学医学部 Beth Israel Hospital, Department of Medicine Research Fellow
2001年 医療法人社団さくら会理事長

新村 昌弘

医学博士
日本口腔インプラント学会専門医、指導医
ITI Fellow
埼玉医科大学歯科口腔外科非常勤講師
日本顎顔面インプラント学会会員

渡辺 顕正

2014年 神奈川歯科大学卒業
2021年 MMデンタルクリニック入職
日本口腔インプラント学会 専修医
日本顎顔面インプラント学会 会員

埼玉インプラント研究会

上顎洞底挙上術におけるトラブルとリカバリーについて

Complications and Recovery in Maxillary Sinus Floor Elevation

座長

勝沼 孝臣 Takaomi Katsunuma

埼玉インプラント研究会
Saitama Implant Association

講師

木村 智憲 Tomonori Kimura

埼玉インプラント研究会
Saitama Implant Association

上顎洞底挙上術(サイナスリフト)は、上顎臼歯部の高度骨吸収症例に対する有効な骨造成術であるが、解剖学的特異性から術中・術後のトラブルリスクを常に内包している。本講演では、予知性の高い手術を達成するための術前診断から、さまざまなトラブルにおける臨床的リカバリーの実際までを包括的に検討・解説する。

まず術前診査として、CTによる三次元的評価の要点、上顎洞炎の有無や特に自然口・中鼻道ルートの開存の有無の確認、耳鼻咽喉科対診への診断基準を整理する。次いで、術中トラブルとして頻度の高い後上歯槽動脈からの出血への止血アプローチや、術後感染・インプラント体の上顎洞内迷入に対しても詳述する。

さらに本講演の核心として、術中に上顎洞粘膜(シュナイダー膜)を大きく穿孔・裂開させてしまったものの、適切な術中処置により骨造成・インプラント埋入まで完遂し得たりリカバリー成功症例を供覧する。広範囲な膜裂開に対して施術した具体的な閉鎖術や実際の臨床経過を通し、明日からの臨床に役立つ内容としていきたい。

【略歴】

木村 智憲

1999年 日本歯科大学生命歯学部東京校 卒業

1999年 帝京大学医学部附属病院 歯科口腔外科学

2011年 MALO CLINIC TOKYO 副院長

2020年～ 学校法人 日本歯科大学 附属病院総合診療科2 臨床講師

2022年～ 木村歯科医院(院長)

ジャシド

高度骨欠損の審美領域におけるインプラント間乳頭の再建

Inter-Implant Papilla Reconstruction in Severely Atrophic Esthetic Zone

座長

村井 健二 Kenji Murai

ジャシド
JACID

牧野 路生 Michio Makino

ジャシド
JACID

講師

堀内 克啓 Katsuhiko Horiuchi

ジャシド
JACID

審美領域における重度垂直的骨欠損症例において、インプラント間乳頭の再建は最も困難な臨床課題ある。インプラント間でブラックトライアングルを防ぐためには、コンタクトポイントを歯槽骨頂から3.4 mm以内 (Tarnow ら, 2003) に設定する必要がある。一般的にはGBRによる骨造成の不足分の代償として、インプラント周囲の軟組織マネジメントとしての結合組織移植術 (CTG) が多用されている。または、コンタクトポイントの「低位設定」やコンタクト「エリア」化による補綴的ソリューションも行われているが、自然な乳頭とは異なっている。

本講演では、CTGに依存せずインプラント間乳頭再建を可能にする硬組織主導の戦略について、非吸収性メンブレンを用いたGBR、オトガイ部からの自家骨移植、歯槽骨延長術、を単独あるいは併用したガイドラインを基に解説したい。そして、10-20年以上経過してもインプラント間乳頭が維持されている症例から得られた5つ因子は、①インプラント外側に2-3 mmの骨、②プラットフォーム歯冠側に2-3 mmの骨、③骨造成時に十分な「over-grafting」、④スクリューのアクセスホールが口蓋 (舌) 側に来るインプラント埋入角度、⑤適正な軟組織マネージメント (歯肉弁根尖側移動術 + 2 次治癒、有茎口蓋弁など) であり、症例を供覧しながら詳細に解説したい。

【略歴】

堀内 克啓

中谷歯科医院院長

岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座非常勤講師

南カリフォルニア大学歯学部客員教授

日本口腔インプラント学会指定研修施設 (臨床系) ジャシド 施設長・会長

元 奈良県立医科大学口腔外科学講座助教授

岩手医科大学附属 歯科医療センター口腔インプラント科

岩手医科大学附属歯科医療センター口腔インプラント科の現在と展望

Oral Implant Clinic, Dental Center, Iwate Medical University Hospital:
Current Progress and Future Direction

座長

今 一裕 Kazuhiro Kon

岩手医科大学附属 歯科医療センター口腔インプラント科
Oral Implant Clinic, Dental Center, University Hospital of Iwate Medical University

講師

佐々木 溪斗 Keito Sasaki

岩手医科大学附属 歯科医療センター口腔インプラント科
Oral Implant Clinic, Dental Center, University Hospital of
Iwate Medical University

横田 潤 Jun Yokota

岩手医科大学附属 歯科医療センター口腔インプラント科
Oral Implant Clinic, Dental Center, University Hospital of
Iwate Medical University

岩手医科大学附属歯科医療センター口腔インプラント科は、北東北地域における大学病院インプラント診療の拠点として、地域医療機関との連携を図りながら、安全性と予知性を重視した包括的治療に取り組んでいる。部分欠損から無歯顎症例、骨造成を伴う高度難症例、顎顔面補綴関連症例まで幅広く対応し、医科歯科連携による高度医療体制を活かした診療を実践している。

研究面では、分子生物学的手法を用いた骨・軟組織再生やインプラント周囲炎病態解析などの基礎研究を推進している。さらに口腔内スキャナー、CBCT、CAD/CAM、ダイナミックナビゲーション、AR/VR技術を活用し、インプラント埋入精度、補綴装置適合精度、咬合・顎口腔機能解析に関するデジタルデンティストリーに関する研究にも取り組んでいる。本セッションでは、当センターにおける臨床、研究、教育の現状と今後の展望について紹介する。

【略歴】

佐々木 溪斗	横田 潤
2019年 岩手医科大学大学院歯学研究科 補綴・インプラント学専攻 入学	2010年 岩手医科大学歯学部 卒業
2023年 同大学院 歯学研究科 補綴・インプラント学専攻 博士課程修了	2014年 岩手医科大学大学院 歯学研究科 補綴・インプラント学専攻 博士課程修了
2023年 岩手医科大学歯学部歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野 常任研究員	2021年 Barts and The London School of Medicine and Dentistry, Queen Mary University of London, Honorary Research Fellow
2024年 同分野 助教	2022年 Centre for Microvascular Research, William Harvey Research Institute, Faculty of Medicine and Dentistry, Queen Mary University of London, Post-doctoral Research Associate
	2023年 岩手医科大学歯学部歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野 講師

新潟再生歯学研究会

無歯顎症例へのインプラント修復の選択

Implant Restoration Options for Edentulous Cases

座長

渡邊 文彦 Fumuhiko Watanabe

新潟再生歯学研究会

Association of Niigata Regenerative and Reconstructive Dentistry

講師

渡邊 文彦 Fumuhiko Watanabe

新潟再生歯学研究会

Association of Niigata Regenerative and Reconstructive Dentistry

榎本 紘昭 Hiroaki Enomoto

新潟再生歯学研究会

Association of Niigata Regenerative and Reconstructive Dentistry

倉島 敏明 Tosiaki Kurasima

新潟再生歯学研究会

Association of Niigata Regenerative and Reconstructive Dentistry

藤井 俊治 Toshiharu Fujii

新潟再生歯学研究会

Association of Niigata Regenerative and Reconstructive Dentistry

インプラントを支台としたブリッジやオーバーデンチャーは審美回復、機能回復、また心理的回復に大きな役割を果たしている。無歯顎患者の主訴や治療に対する希望は患者に寄り、審美回復、機能回復、清掃性など優先順序が異なる。また患者さんの年齢、職業、全身疾患の有無、治療費用、インプラント埋入本数など治療に考慮すべき点もある。インプラントを支台としたブリッジには4～10本のインプラントを支台とし、固定性、患者可撤性があり、歯があった状態と同じようなあるいはそれに近似した審美回復、機能回復ができ、ブリッジを外すことなく清掃性可能である。インプラントインプラントオーバーデンチャーは通常上顎では3本以上、下顎では2本以上のインプラントを支台としてこれに維持装置を付与し、機能回復する。大きな骨欠損がある場合にも義歯床を用いて回復することができ、高い評価を得ている。これらの治療法の決定は患者の希望、費用、年齢、全身状態によりをどのように決定するか症例を通じてデスカッションする。

【略歴】

渡邊 文彦

日本歯科大学名誉教授

新潟再生歯学研究会 施設長

日本口腔インプラント学会元理事長

日本口腔インプラント学会専門医・指導医

倉島 敏明

日本口腔インプラント学会専門医

藤井 俊治

日本口腔インプラント学会専門医

榎本 紘昭

日本口腔インプラント学会元理事

新潟再生歯学研究会 元施設長

北海道形成歯科研究会

審美インプラント治療における補綴主導型軟組織マネジメント

Prosthetically Driven Soft Tissue Management in Esthetic Implant Therapy

座長

前田 大輔 Daisuke Maeda

北海道形成歯科研究会
Institute of Hokkaido Plastic Dentistry

講師

菅田 真吾 Shingo Sugeta

北海道形成歯科研究会
Institute of Hokkaido Plastic Dentistry

抜歯後、歯槽堤幅は減少する。とくに審美領域では唇側骨壁が薄い場合が多く、抜歯後に生じる硬・軟組織のボリューム変化は、最終的な審美結果に大きく影響を与える。

従来、インプラント治療では唇側骨量の確保が重視されてきた。もちろん、インプラント唇側に十分な硬組織を獲得することは、生物学的安定のために重要である。しかし、硬組織増生が成功していても、最終補綴装置のゼニス位置に相当する軟組織ボリュームが不足していれば、隣在歯との調和が取れたムコーザルマージンと理想的な歯冠形態を補綴装置に再現することは困難である。したがって審美領域では、インプラントの三次元的位置、唇側骨量、補綴設計に加えて、インプラント周囲軟組織ボリュームを評価する必要がある。

本講演では、IOSデータとデジタルワックスアップを用いた軟組織不足量の可視化、そして結合組織移植を中心とした軟組織増生法について、症例を通して供覧する。審美領域インプラント治療における軟組織マネジメントを、経験や感覚だけに頼る処置ではなく、補綴ゴールから逆算した再現性のある治療戦略として考察したい。

【略歴】

菅田 真吾

日本口腔インプラント学会 専門医

日本顕微鏡歯科学会 認定医

北海道形成歯科研究会 会員

ITI sc 京都 Co-director

ENの会 大阪会長

インプラント再建歯学研究会

主要インプラントシステムの特徴と臨床応用 —なぜそのインプラントを選択するのか?—

Characteristics and Clinical Applications of Major Dental Implant Systems
— Why Do Clinicians Choose a Particular Implant System? —

座長

山田 清貴 Kiyotaka Yamada

インプラント再建歯学研究会
Institute for Implant Reconstructive Dentistry

講師

遠藤 学 Gaku Endo

インプラント再建歯学研究会
Institute for Implant Reconstructive Dentistry

大塚 保光 Yasumitsu Otsuka

インプラント再建歯学研究会
Institute for Implant Reconstructive Dentistry

坂巻 良一 Ryoichi Sakamaki

インプラント再建歯学研究会
Institute for Implant Reconstructive Dentistry

猪俣 謙次 Kenji Inomata

インプラント再建歯学研究会
Institute for Implant Reconstructive Dentistry

岩元 健剛 Kengoh Iwamoto

インプラント再建歯学研究会
Institute for Implant Reconstructive Dentistry

松田 健男 Takeo Matsuda

インプラント再建歯学研究会
Institute for Implant Reconstructive Dentistry

鈴木 章弘 Akihiro Suzuki

インプラント再建歯学研究会
Institute for Implant Reconstructive Dentistry

現在、日本国内では多くのインプラントシステムが使用されているが、各システムには接続様式や表面性状、外科・補綴プロトコールなどの違いがあり、それぞれに特徴や利点が存在する。一方で、「なぜそのインプラントを選択するのか」「どのような症例で真価を発揮するのか」といった点について学ぶ機会は決して多くない。

本施設セッションでは、日本国内で広く使用されている京セラ社製インプラント、ストローマン社製インプラント、ノーベルバイオケア社製インプラントをテーマに、7名の演者がそれぞれの臨床経験をもとに解説する。各システムの特徴や利点、適応症、長期安定のための工夫、さらには実際に使用して感じるメリットや注意点について症例を交えながら紹介する。

単なる製品紹介ではなく、「なぜそのシステムを選択するのか」という臨床家の視点に焦点を当て、日常臨床に直結する知見を共有することを目的とする。本セッションが、参加者にとって各インプラントシステムへの理解を深めるとともに、インプラントシステム選択の一助となれば幸いである。

【略歴】

遠藤 学
1999年 明海大学歯学部卒業
2015年 歯学博士号取得(歯周病学)
日本口腔インプラント学会専門医・指導医・
代議員
一般社団法人インプラント再建歯学研究会
施設長
明海大学歯学部歯周病学講座客員講師

大塚 保光
2000年 東北大学歯学部卒業
一般社団法人インプラント再建歯学研究会
理事長
日本口腔インプラント学会専門医

坂巻 良一
2008年 東北大学歯学部卒業

一般社団法人インプラント再建歯学研究会
副理事長
日本口腔インプラント学会専門医

猪俣 謙次
2006年 日本大学歯学部卒業
2011年 東京医科歯科大学(現東京科学大
学)大学院医歯学総合研究科学口
腔外科学分野卒業
歯学博士
一般社団法人インプラント再建歯学研究会

副施設長
日本口腔インプラント学会専門医・指導医

岩元 健剛
2006年 日本歯科大学歯学部卒業
日本口腔インプラント学会 専門医

国際抗老化再生医療学会 統合医療認定医
(歯科)
一般社団法人インプラント再建歯学研究会
理事

松田 健男
2005年 昭和大学歯学部卒業
日本口腔インプラント学会専門医
一般社団法人インプラント再建歯学研究会
理事

鈴木 章弘
2011年 岡山大学歯学部卒業
2020年 歯学博士号取得(インプラント学)
日本口腔インプラント学会 専門医・指導医
一般社団法人インプラント再建歯学研究会
理事

岡山大学病院

歯槽堤保存術の今

Current Status of Alveolar Ridge Preservation

座長

窪木 拓男 Takuo Kuboki

岡山大学病院
Okayama University Hospital

園山 亘 Wataru Sonoyama

岡山大学病院
Okayama University Hospital

講師

大野 充昭 Mitsuaki Ono

岡山大学病院
Okayama University Hospital

小田 師巳 Norimi Oda

岡山大学病院
Okayama University Hospital

近年、抜歯後の組織の喪失を抑制する手技として、抜歯後即時埋入やソケットシールドテクニック、歯槽堤保存術(Alveolar Ridge Preservation: ARP)などが着目されている。これらの手技の有効性は数多くの報告で証明され、用いる材料も多くのもが紹介されている。しかしながら、抜歯後即時埋入やソケットシールドテクニックは、通法の早期埋入や遅延埋入と比較すると難度が高く、テクニックセンシティブであることは否めない。一方、ARPは、その術式はシンプルであるものの、組織喪失抑制効果は高く、その後の大規模な組織造成術を回避することでトータルの治療の難度を下げられるとともに、生体への侵襲も低減できる手技である。しかしながら、ARPの効果を最大限得るためには、抜歯対象歯周囲の硬・軟組織が受けているダメージを術前の検査によって把握し、それに応じた手技と材料を採用することが重要である。

本セッションでは、ARPにフォーカスを当て、現時点でのエビデンスに基づいた考え方とエビデンスが乏しい部分へのアプローチをお伝えしたいと思う。

【略歴】

大野 充昭

2003年 岡山大学歯学部 卒業
2007年 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科修了・博士(歯学)取得
2007-2009年 アメリカ国立衛生研究所 客員研究員
2019-2024年 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科(医) 准教授
2024年- 岡山大学学術研究院医歯薬学域(歯) 准教授

小田 師巳

2001年 岡山大学歯学部 卒業
2005年 大阪府開業
2012年 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科修了・博士(歯学)取得
2018-2020年 岡山大学病院 診療講師
2021年- 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 非常勤講師

東京大学医学部附属病院口腔顎顔面外科・矯正歯科

有病者・先天性疾患・希少疾患に向き合う口腔インプラント医療 —多職種連携による当科の取り組み—

Oral Implant Rehabilitation for Patients with Medical Conditions, Congenital Disorders, and Rare Diseases: Our Multidisciplinary Team Approach

座長

星 和人 Kazuto Hoshi

東京大学医学部附属病院口腔顎顔面外科・矯正歯科

Oral-Maxillofacial Surgery and Orthodontics, University of Tokyo Hospital

講師

中田 秀美 Hidemi Nakata

東京大学医学部附属病院口腔顎顔面外科・矯正歯科

Oral-Maxillofacial Surgery and Orthodontics, University of Tokyo Hospital

福留 彩音 Ayane Fukutome

東京大学医学部附属病院口腔顎顔面外科・矯正歯科

Oral-Maxillofacial Surgery and Orthodontics, University of Tokyo Hospital

近年、口腔インプラント治療の適応は拡大し、有病者や先天性疾患・希少疾患、顎顔面欠損を有する患者に対しても、口腔機能およびQOLの回復を目的とした治療が求められている。一方で、これらの症例では、全身状態や原疾患、解剖学的条件を十分に考慮した包括的な診療体制が不可欠である。

当科では、医師、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、看護師、言語聴覚士、管理栄養士、診療放射線技師など、多職種・多診療科が連携し、安全性と機能回復を両立した口腔インプラント医療の実践に取り組んでいる。がん治療後や顎骨再建後のインプラント治療をはじめ、口唇口蓋裂、先天性部分無歯症、外傷による顎顔面欠損に対する広範囲顎骨支持型補綴など、高度かつ個別性の高い治療に取り組むとともに、糖尿病、腎疾患、自己免疫疾患などの全身疾患や、骨系統疾患を含む希少疾患患者に対しても、医科歯科連携のもと、適切な治療計画の立案と周術期管理を行っている。

さらに、研修医・若手歯科医師を対象としたハンズオン実習などの教育活動に加え、インプラントを有する入院患者・周術期患者に対する口腔健康管理やインプラント周囲組織の管理にも積極的に取り組んでいる。

本セッションでは、当科における診療・教育・周術期管理の実際を紹介するとともに、多職種・医科歯科連携を基盤とした包括的な口腔インプラント医療の現状と将来像を展望する。

【略歴】

中田 秀美

1998年 徳島大学歯学部卒業
2002年 徳島大学大学院博士課程修了(口腔外科学第一講座)
2002年-2004年 東京医科歯科大学歯学部顎顔面外科学分野 医員(研修医)
2004年-2025年 東京医科歯科大学/東京科学大学歯学部インプラント・口腔再生医学分野/口腔再生再建学分野 助教
2025年 東京大学医学部附属病院口腔顎顔面外科・矯正歯科 助教/病院特任講師

福留 彩音

2019年 日本大学 歯学部 卒業
2025年 東京大学大学院医学系研究科外科学専攻 博士課程修了(医学博士)
2025年 東京大学医学部附属病院 顎顔面外科・矯正歯科 特任臨床医

横浜口腔インプラント研究会

インプラント治療における3Dプリンター模型の有用性について

Clinical Utility of 3D-Printed Models in Implant Treatment

座長

佐藤 淳一 J Sato

横浜口腔インプラント研究会
Yokohama Research Institute for Oral Implant

佐々木 成高 S Sasaki

横浜口腔インプラント研究会
Yokohama Research Institute for Oral Implant

講師

笠間 慎太郎 S Kasama

横浜口腔インプラント研究会
Yokohama Research Institute for Oral Implant

桐月 寛郎 H Kiritsuki

横浜口腔インプラント研究会
Yokohama Research Institute for Oral Implant

村田 大輔 D Murata

横浜口腔インプラント研究会
Yokohama Research Institute for Oral Implant

加藤 道夫 M Kato

横浜口腔インプラント研究会
Yokohama Research Institute for Oral Implant

近年、歯科用CBCTおよび口腔内スキャナーの普及に伴い、デジタルデータを活用した3Dプリンター模型の作製が容易となった。3Dプリンター模型は、術前に顎骨形態や周囲解剖学的構造を立体的に把握できるため、インプラント埋入位置や埋入方向の検討に有用である。また、これらの模型を基にサージカルガイドやプロビジョナルクラウンを術前に製作することも可能である。しかしながら、従来の3Dプリンター模型では骨質の再現が困難であり、実際の外科処置を想定した術前シミュレーションには限界があった。

そこで本発表では、骨質を考慮した3Dプリンター模型の製作方法を紹介するとともに、その臨床的有用性について検討した。単純なインプラント埋入症例に加え、上顎臼歯部における骨移植症例や抜歯即時埋入・即時負荷症例を供覧しながら、術前シミュレーションへの応用や治療計画立案における活用方法について報告する。さらに、インプラント治療の安全性および予知性向上への可能性について考察する。

(一般社団法人横浜口腔インプラント研究会倫理委員会 倫理審査 承認番号 R8-1)

【略歴】

笠間 慎太郎

公益社団法人日本口腔インプラント学会会員
日本補綴歯科学会会員

桐月 寛郎

一般社団法人横浜口腔インプラント研究会 理事
公益社団法人日本口腔インプラント学会専門医

村田 大輔

一般社団法人横浜口腔インプラント研究会 理事
公益社団法人日本口腔インプラント学会専門医

加藤 道夫

一般社団法人横浜口腔インプラント研究会 理事長
公益社団法人日本口腔インプラント学会専門医・指導医

ユニバーサルインプラント研究所

エクストラワイド・ショートインプラントを用いた グラフトレスサイナスリフトコンセプト

Graftless Sinus Lift Concept Using Extra Wide Short Implants

座長

前田 貢 Mitsugi Maeda

ユニバーサルインプラント研究所
Universal Implant Research Institute

講師

有賀 正治 Seiji Aruga

ユニバーサルインプラント研究所
Universal Implant Research Institute

上顎臼歯部の垂直的残存骨量が乏しい部位において上顎洞挙上術を併用することによりインプラントを埋入することができるようになり長らくが経過した。

しかし、ラテラルアプローチによる上顎洞挙上術は難易度も高くさらに外科的侵襲度が高いのも否めない事実である。

近年では直径6mm以上のエクストラワイドショートインプラントをOsseodensificationによるCompaction Auto GraftingとSinus Auto Graftingにより従来からのサイナスリフトに比べ非常に短期間で低侵襲な治療が行うことができるようになった。また、この手法は洞底の挙上にはまったく骨補填材を用いないという観点からも術後の合併症も回避できる術式である。

本講演ではより安全でかつ効率的なインプラント治療を可能にするためのOsseodensification Techniqueとエクストラワイドショートインプラントを用いた新しい上顎臼歯部へのアプローチを中心に症例とともに供覧していただく。

【略歴】

有賀 正治

医療法人Smile&Wellnessあるが歯科クリニック 理事長・院長

-即時荷重研究会 会長

-神奈川歯科大学特任講師

-ICOI国際口腔インプラント学会 認定医 / 指導医 / 日本支部理事

-MEGA'GEN Implant・Versah公認インストラクター